

第 27 回
おいしい水づくり推進懇話会
資料

第 2 次おいしい水づくり計画に関する取組の
平成 29 年度実施状況

千葉県水道局

第 27 回おいしい水づくり推進懇話会

平成 30 年 3 月 12 日（月）

1	安全でおいしい水キャンペーン	3
(1)	利き水	3
(2)	オフィシャルサイト	5
(3)	水道出前講座	6
2	お客様とのコミュニケーション	8
(1)	インターネットモニターアンケート	8
(2)	水質検査体験	12
3	おいしい水づくりの技術的な取組	16
(1)	残留塩素低減化	16
(2)	塩素臭を含む臭気強度	17

1 安全でおいしい水キャンペーン

(1) 利き水

「第2次おいしい水づくり計画」に基づき、お客様においしくなった水道水を体験していただくため、各種イベントで利き水を実施しているところである。

平成29年9月10日(日)にららぽーとTOKYO-BAYで開催した「おいしくなったよ!千葉の水~千葉県水道局PRイベント~」、平成29年10月9日(月・祝)に幕張メッセで開催された「エコメッセ2017inちば」において、利き水を実施した。

実施方法は、水道局幕張庁舎(開催日前日に採水、提供時の残留塩素0.5mg/L)とミネラルウォーター(市販品の中で当局の水道水と硬度に近い製品)を同じ水温(提供時15℃前後)に調整し、希望するお客様に提供して飲み比べていただいた。

なお、お客様には2種類の水をどちらが水道水であるかを知らせずに飲んでいただき、両方の水について、おいしさの評価を5点満点でアンケート用紙に記入していただいた。

- 1点: おいしくない
- 2点: ややおいしくない
- 3点: ふつう
- 4点: ややおいしい
- 5点: おいしい

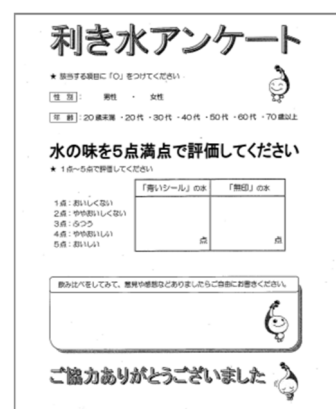


図1-1 アンケート用紙

ア おいしくなったよ!千葉の水~千葉県水道局PRイベント~

利き水に参加していただいた方は325名(そのうち、有効回答は318名)であった。

水道水の方がおいしいと感じた方(水道水の方に高い点数をつけた方)が全体31%、同じくらい(同点)と答えた方が11%であった。

点数は、水道水の平均点が3.48点、ミネラルウォーターの平均点が4.08点と0.6点の差があった。

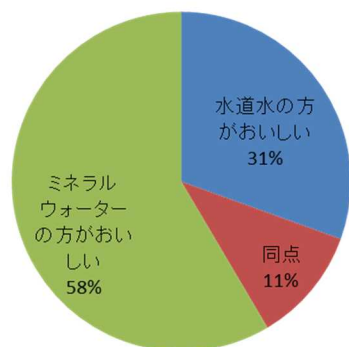


図1-2 利き水の結果(水道局イベント)



図1-3 利き水の様子(水道局イベント)

イ エコメッセ 2017in ちば

利き水に参加していただいた方は 220 名（そのうち、有効回答は 219 名）であった。

水道水の方がおいしいと感じた方（水道水の方に高い点数をつけた方）が全体 31%、同じくらい（同点）と答えた方が 15%であった。

点数は、水道水の平均点が 3.63 点、ミネラルウォーターの平均点が 4.15 点と 0.5 点の差があった

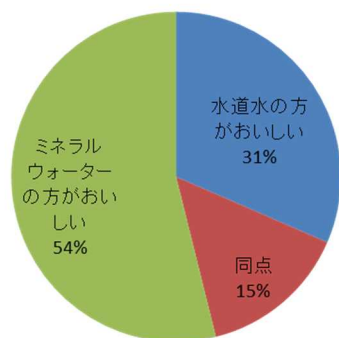


図 1-4 利き水の結果(エコメッセ)



図 1-5 利き水の様子(エコメッセ)

両日とも、「水道水がおいしい」と「同じくらい」の合計が 4 割以上と、水道水に一定の評価をいただいた。

(2) オフィシャルサイト

「おいしい水づくり計画オフィシャルサイト」は、当局のおいしい水づくりへの取組や水道水に関する情報を発信するため、平成19年度に開設し、随時更新を行っている。今年度のオフィシャルサイトによる情報発信は、2月末時点で計22回行っている。

主な内容は、毎月1回更新している「水のおいしいクイズ」のほか、夏休みイベント等の開催報告である。更新時には、従来からのメールマガジンに加え、11月からはポタリちゃんがつぶやく Twitter を活用して、更新内容を発信している。

オフィシャルサイト1月末時点の月別アクセス件数は図1-6、オフィシャルサイトの年度別アクセス件数は図1-7に示すとおりであった。

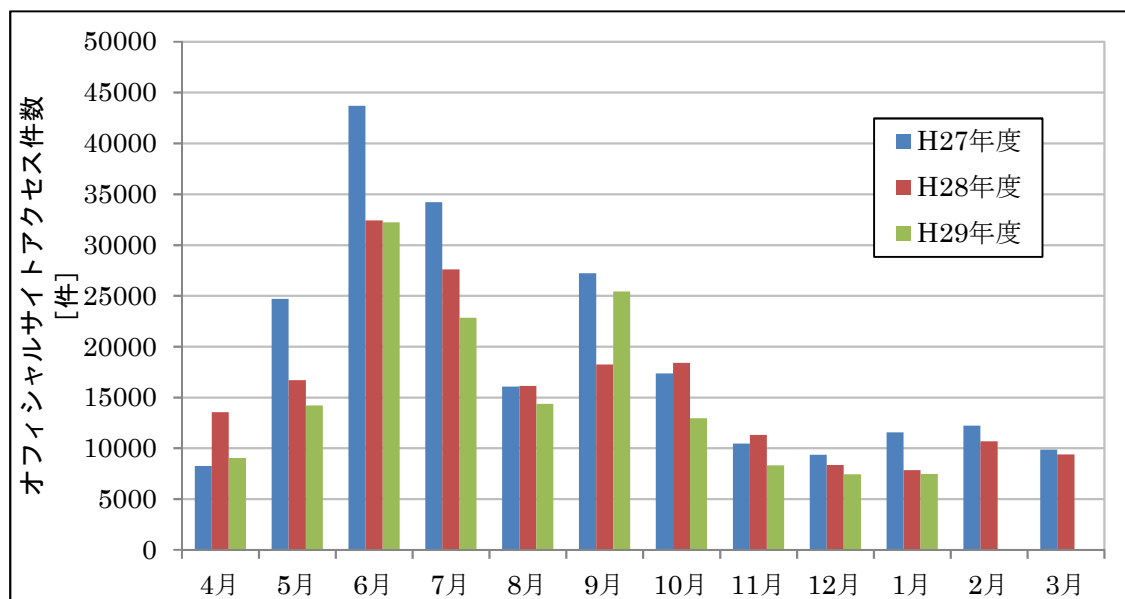


図1-6 オフィシャルサイトアクセス月別アクセス件数 (H27～H29年度)

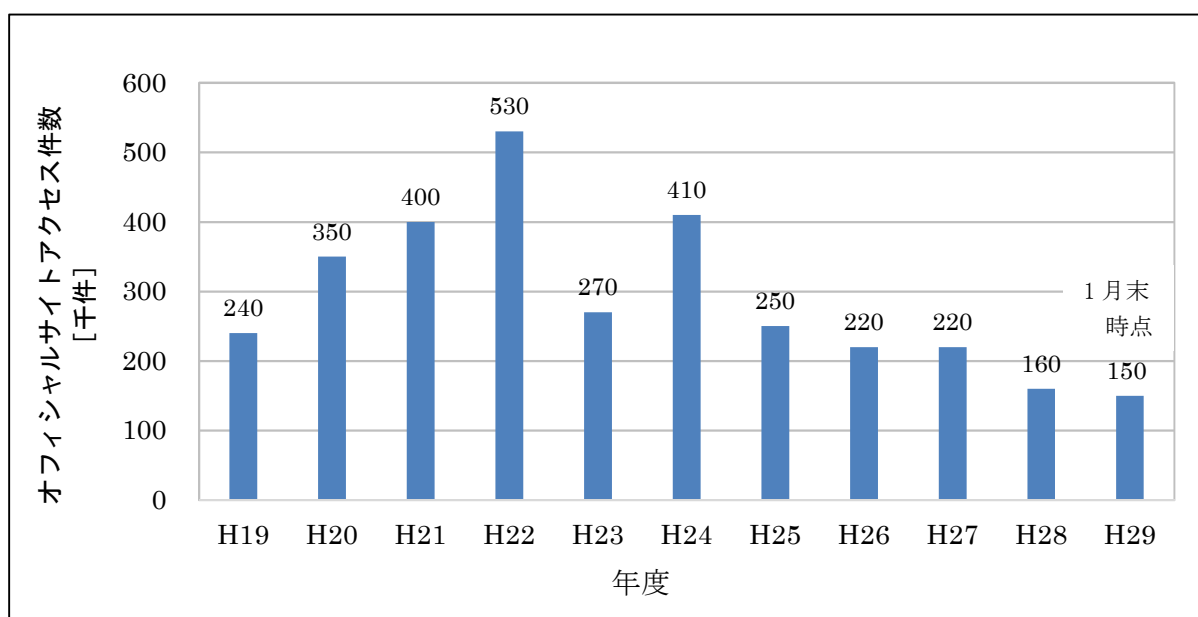


図1-7 オフィシャルサイト年度別アクセス件数 (H19～H29年度)

(3) 水道出前講座

ア 開催状況

水道出前講座は、おいしい水づくりに関する取組を紹介するとともに、水道水の安全性やおいしさを知っていただく機会を提供するため、小学生や一般のお客様を対象に平成 19 年度から実施している。

2 月末時点の実施回数は 36 回で、その内訳は、小学校向け 27 回、一般向け 9 回であり、受講者数は約 2,700 人であった。なお、一般向け 9 回には、幕張庁舎で 2 回開催した夏休みイベントとららぽーと船橋で開催した水道局 PR イベントにおいて行った 2 回（午前・午後の各 1 回）を含む。

水道出前講座の受講者数及び実施回数の推移を、図 1-8～9 に示す（平成 29 年度については、2 月末時点での受講者数）。

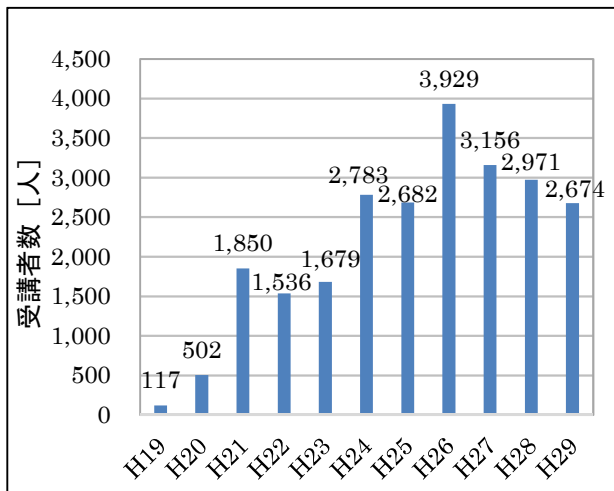


図 1-8 水道出前講座受講者数の推移

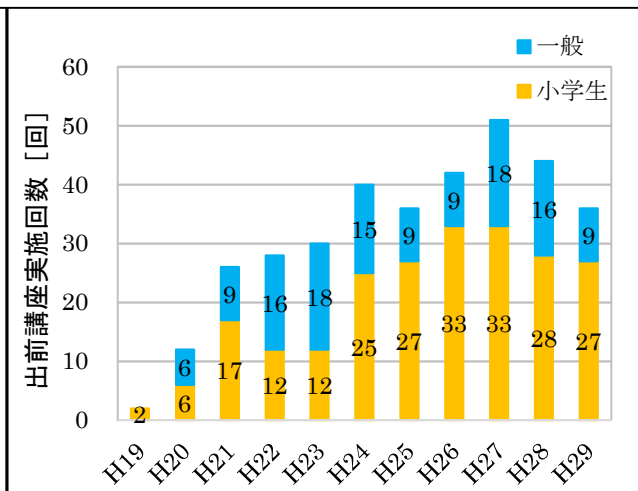


図 1-9 水道出前講座実施回数の推移

イ 夏休みイベント

通常、小学校や自治体など団体を対象に開催している「水道出前講座」を、ご家族や少人数のグループでもご参加いただけるように、夏休み期間中の 7 月 22 日（土）に「水道『おいしい水』教室」（図 1-10）（13 組 28 名参加）を、8 月 5 日（土）に「親子で自由研究『おいしい水ができるまで』（図 1-11）（13 組 29 名参加）を幕張庁舎にて開催した。



図 1-10 浄水処理の説明
（「水道『おいしい水』教室」）



図 1-11 水のおいしいクイズ（「親子で自由研究『おいしい水ができるまで』」）

ウ 参加促進に向けた取組

平成 29 年 9 月 5 日発行の県水だよりの紙面に、水道出前講座の募集案内を掲載した（図 1-12）。また、小学校への募集案内を平成 29 年 7 月に管内の全 325 校へ、さらに 11 月にも、その時点で申し込みが無かった 301 校に郵送した（図 1-13）。

来年度からは、引き続き、募集案内の郵送の時期や回数を工夫するとともに、新たに Twitter を活用して募集を行う予定である。

開催は無料です!

水道出前講座を希望する団体を募集します

千葉県水道局では、水道水のことを楽しく学んでいただく出前講座を行っています。何気なく使っている水道水、意外と知らないことがあるかも。お申し込みをお待ちしています!お気軽にお問い合わせください。

9月から10月は希望が集中するので申し込みはお早めに

▼QRコード

【講座内容】 90分程度

- 安全でおいしい水はどうやってできているのかな? (紙芝居)
- 安全でおいしい水のつくり方を体験しよう! (浄水処理実験)
- 水のおいしいクイズにチャレンジしよう!

【実施期間】 1年を通じてお客様の希望される日時にあわせ実施しています。

【対象】 給水区域内の小学校(主に4年生向け) または一般の団体(自治会など)

【申し込み方法】 はがき又はFAXで、
①団体名 ②申込代表者氏名 ③連絡先 ④参加人数
⑤開催希望日時(第3希望まで) ⑥実施予定会場
をご記入の上、お早めに下記あてに申し込みください。
(開催日は、調整させていただく場合があります)

【問い合わせ・申し込み先】 〒262-8512 (郵便番号記入により住所省略可)
千葉県花見川区幕張町5丁目417-24
「千葉県水道局水道部計画課おいしい水づくり推進班」
TEL:043-211-8632 FAX:043-274-9804

詳細は「千葉県水道局 出前講座」で検索

図 1-12 県水だより (9月5日発行)

おいしくなったよ!千葉の水

講座は無料です!

水道出前講座のご案内

千葉県水道局では小学校に伺い、水道出前講座を行っています。普段利用している水道水のこと、楽しく学んでみませんか?ご応募、お待ちしております。

●講座内容 ● 「安全でおいしい水ができるまで(紙芝居)」
「水の作り方を体験しよう(浄水処理実験)」
「水のおいしいクイズにチャレンジしよう」など

●開催期間 ● 連年(開催日は調整の上、決定します)

●対象 ● 小学校4年生以上

●所要時間 ● 時間割の2コマ程度(応相談)

●申込方法 ● 同封の用紙に、学校名、申込代表者氏名、連絡先、開催希望日等必要事項を記入の上、下記申込先までFAXしてください。

●申込先 ● 〒262-8512 (郵便番号記入により住所省略可)
千葉県水道局水道部計画課おいしい水づくり推進班
TEL:043-211-8632 FAX:043-274-9804

もっと知りたい方は、「おいしい水」の特設オフィシャルサイトへ!

もっとも大活躍しや!

千葉県水道局

図 1-13 小学校への募集案内

2 お客様とのコミュニケーション

(1) インターネットモニターアンケート

お客様のご意見を伺い今後の施策の参考とするため、インターネットモニターアンケートを行っている。おいしい水づくりに関連する代表的な調査項目の調査結果は以下のとおりである。

ア 調査概要

- 調査期間 平成 29 年 6 月 23 日から 7 月 5 日まで（年 4 回中の 1 回目）
- 対象者数 600 人（千葉県水道局給水区域内にお住まいの方）
- 回答者数 529 人（回答率 88.2%）

（設問-1）あなたは、現状の水道水について、飲み水として満足していますか。

表 2-1 の 5 項目を選択肢として調査したところ、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合計した回答比率は 79.8%であった。また、飲み水としての満足度の推移については、図 2-1 のとおりである。

表 2-1 水道水としての満足度について

選択肢	回答数 N=529	回答比率	回答数		回答比率
1. 満足している	150	28.4%	満足している	422	79.8%
2. どちらかといえば満足している	272	51.4%			
3. どちらかといえば不満である	48	9.1%	不満である	75	14.2%
4. 不満である	27	5.1%			
5. どちらともいえない	32	6.0%			

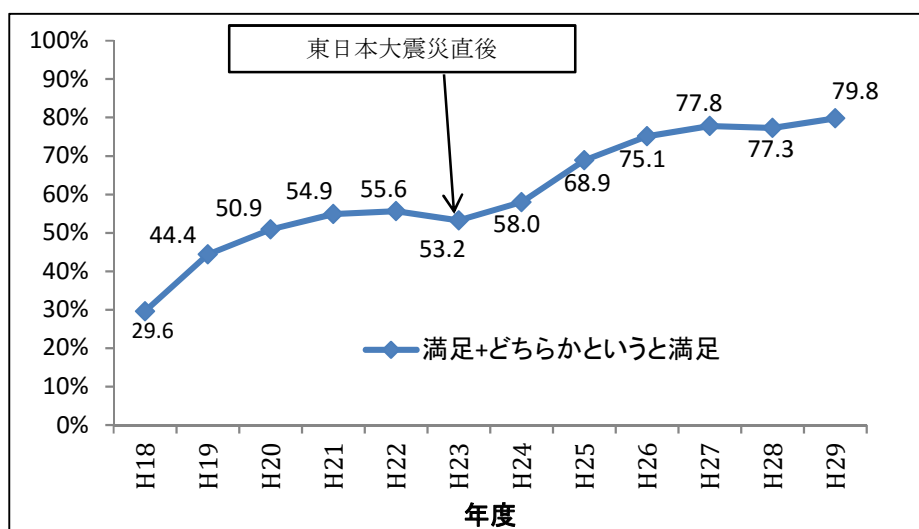


図 2-1 飲み水としての満足度の推移

(設問-2) (あなたのお宅の) 水道水はおいしいですか。(浄水器などを通さない水でお試してください)

表 2-2 の 5 項目を選択肢として調査したところ、「おいしい」と「ややおいしい」を合計した回答比率は 51.9%であった。また、水道水のおいしさについての推移については図 2-2 のとおりである。

表 2-2 水道水のおいしさについて

選択肢	回答数 N=529	回答比率	回答数		回答比率
			おいしい	おいしい+ややおいしい	
1. おいしい	88	16.6%	275	51.9%	
2. ややおいしい	187	35.3%			
3. ややおいしくない	99	18.7%	149	28.2%	
4. おいしくない	50	9.5%			
5. どちらともいえない	105	19.8%			

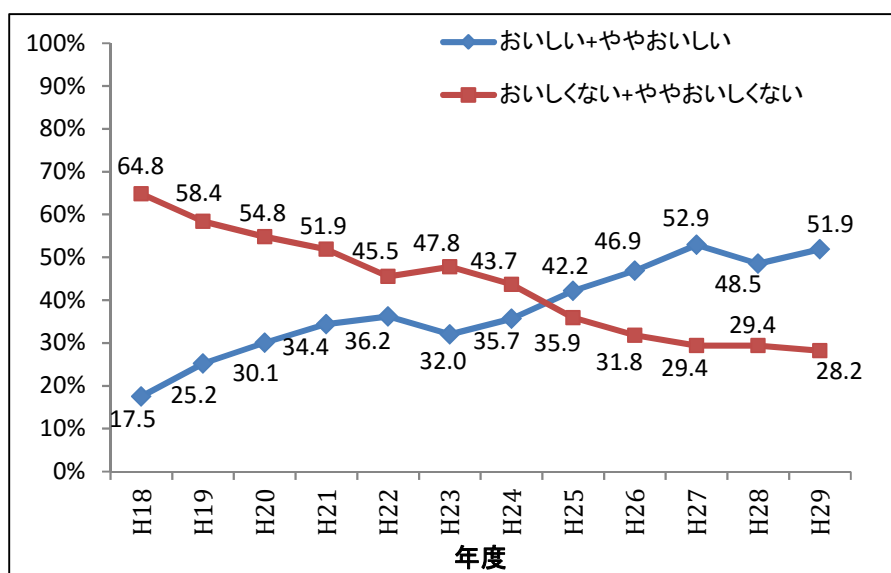


図 2-2 水道水のおいしさについての推移

(設問-3) あなたは、今使っている水道水の安全性についてどのように思いますか。

表 2-3 の 5 項目を選択肢として調査したところ、「安心である」と「まあまあ安心である」を合計した回答比率は 83.1%であった。また、水道水の安全性についての推移については図 2-3 のとおりである。

表 2-3 水道水の安全性について

選択肢	回答数 N=529	回答比率	回答数		回答比率
			安心である	安心である+まあまあ安心である	
1. 安心である	169	31.9%	440	83.1%	
2. まあまあ安心である	271	51.2%			
3. やや不安である	75	14.2%	81	15.3%	
4. 不安である	6	1.1%			
5. どちらともいえない	8	1.5%			

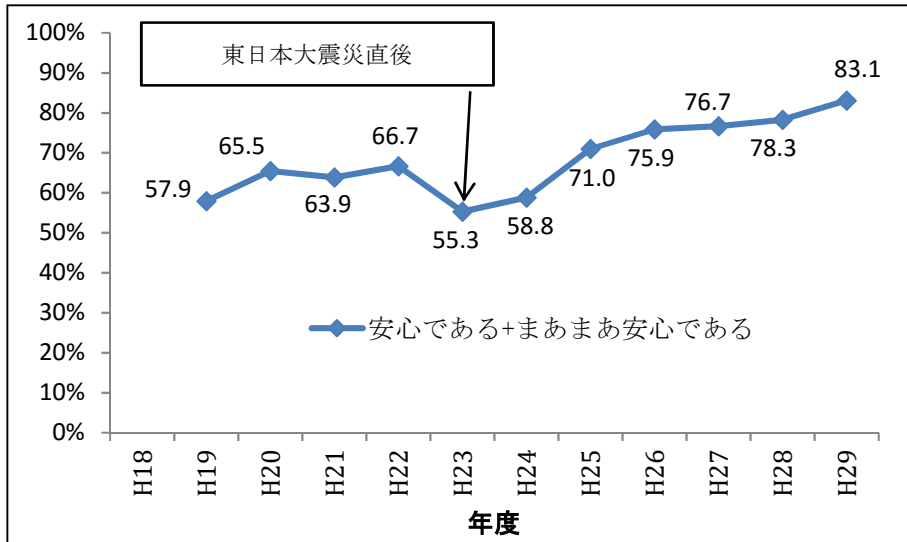


図 2-3 水道水の安全性についての推移

(設問-4) 水道水を飲んでみて塩素のにおいは感じますか (浄水器などを通さない水でお試してください)。

表 2-4 の 4 項目を選択肢として調査したところ、塩素のにおいを「感じる」と「少し感じる」を合計した回答比率は 26.7%であった。また、塩素臭を感じる方の推移は図 2-4 のとおりである。

表 2-4 塩素のにおいを感じるか

選択肢	回答数 N=529	回答比率	回答数	回答比率
1. 感じる	28	5.3%	感じる	141
2. 少し感じる	113	21.4%		
3. ほとんど感じない	280	52.9%	感じない	388
4. 感じない	108	20.4%		

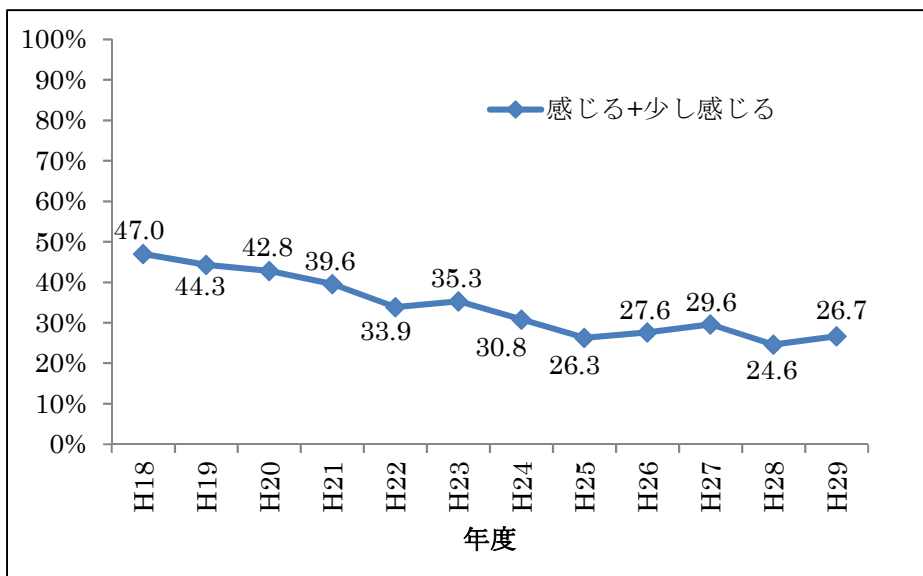


図 2-4 塩素臭を感じる方の推移

イ まとめ

「水道水の飲み水としての満足度」や「水道水の安全性」の評価が上昇している。これは、アンケートの自由意見に「塩素のにおいが気にならなくなった」や、「蛇口をひねればいつでも安心して水道水を飲むことができている」との意見が多く寄せられたことから、安全でおいしい水キャンペーンなどにより、お客様においしい水づくりの技術的な取組の内容や水道水の安全性等への理解を深めていただけたことが要因と考えられる。

(2) 水質検査体験

水質検査体験制度は、お客様が御自宅の水道水の水質検査を行い、結果を報告していただく制度で、お客様御自身で水道水の安全性を確認していただくとともに、当局が広範囲のデータを得ることを目的としている。今年度の実施状況は表 2-5 のとおりである。

表 2-5 平成 29 年度水質検査体験実施状況

募集人数	約 300 人
募集期間	平成 29 年 5 月 25 日～7 月 9 日
広報手段	県水だより、ホームページ、メールマガジン及びイベントでの告知
応募方法	インターネット
応募人数	227 名
対象者数	219 名（県営水道不使用者 8 名は選外）
報告期間	平成 29 年 8 月 1 日～8 月 31 日
報告回数	報告期間内で対象者の都合が良いときに 1 回
報告内容	・簡易水質検査結果（残留塩素、pH、全硬度） ・感覚検査結果（水のにごり、におい、味） ・水道水に関するアンケート（応募時と検査結果報告時の 2 回）
報告方法	インターネット
報告者数	200 名（回答率 91%）

ア 簡易水質検査結果

簡易水質検査結果を図 2-5 に示す。

残留塩素濃度（水道法施行規則による基準：0.1mg/L 以上、水質管理目標設定項目 1.0mg/L 以下）は、0.4mg/L 以上 1.0mg/L 未満と回答された方が最も多く、これは当局の水質検査結果と近い測定結果であった。

pH（水質基準項目の基準値：5.8 以上 8.6 以下）は、7.4 超～7.8 以下の回答が最も多く、これは当局の水質検査結果と近い測定結果であった。

硬度（水質基準項目の基準値：300mg/L 以下）は、20mg/L 超～50 mg/L 以下と答えた方と 50mg/L 超～100mg/L 以下と答えた方が同じくらいであった。

簡易水質検査は色見本を用いた比色法であることから、見本と近い色に当てはめて数値を読む傾向が見られ、当局で実施している公定法による水質検査結果とはやや離れた報告も見受けられた。

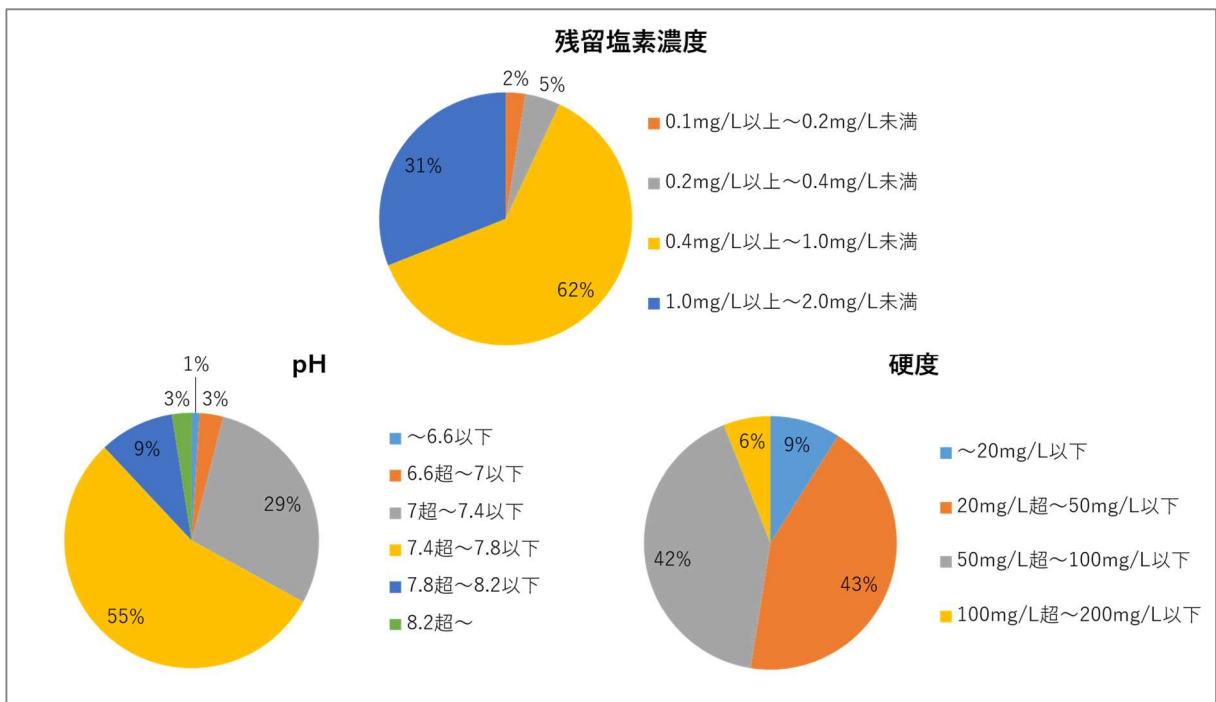


図 2-5 簡易水質検査「残留塩素濃度」「pH」「硬度」の結果 (N=200)

イ 感覚検査結果

塩素臭は 72%、塩素臭以外においては 81%の方が「感じない」と回答した。水道水のおいしさは、59%の方が「おいしい」「ややおいしい」と回答した。

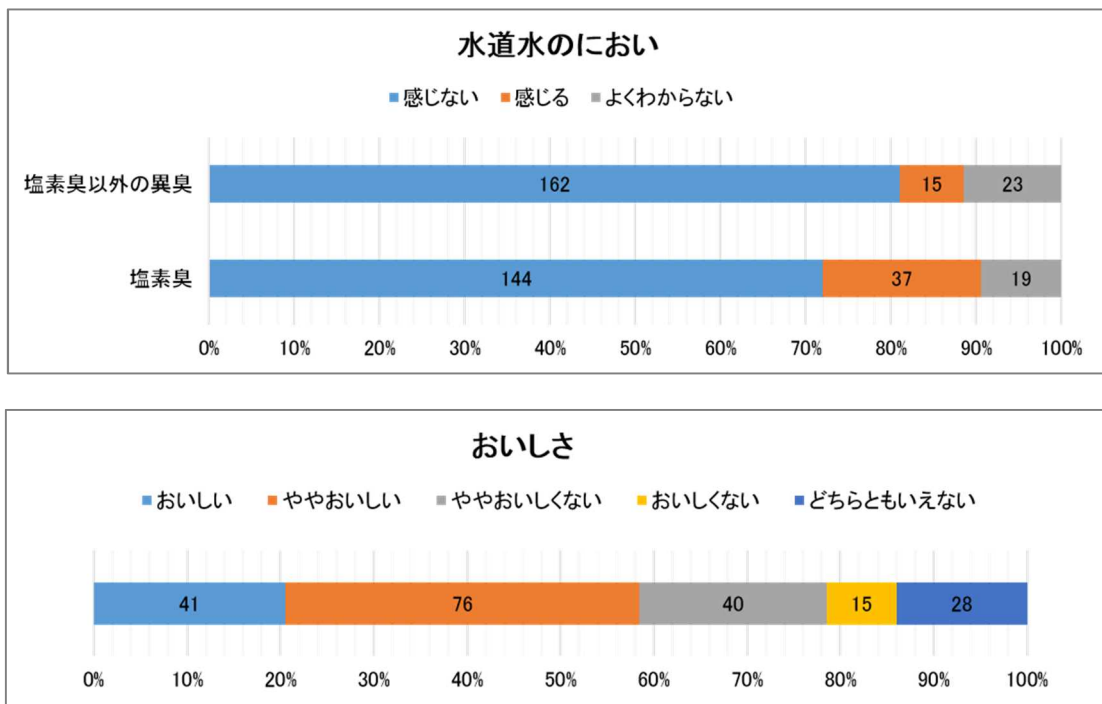


図 2-6 感覚検査「水道水のおい」と「水道水のおいしさ」の結果 (N=200)

ウ アンケート結果（「水質検査体験」実施前後の比較）

報告者 200 名を対象として、「水質検査体験」実施前後で水道水に対する意識に変化があるかアンケート結果を比較した。

(ア) 「水道水の飲み水としての満足度」(図 2-7)

実施前と比べ「満足している」は増加したが、「満足している」「どちらかといえば満足している」の合計は減少した。募集時期（5～7月）よりも検査体験時期（8月）のほうが、水温が高いこと、また塩素濃度が最夏期設定のため1年を通して最も高いことなどが関係したと推測される。

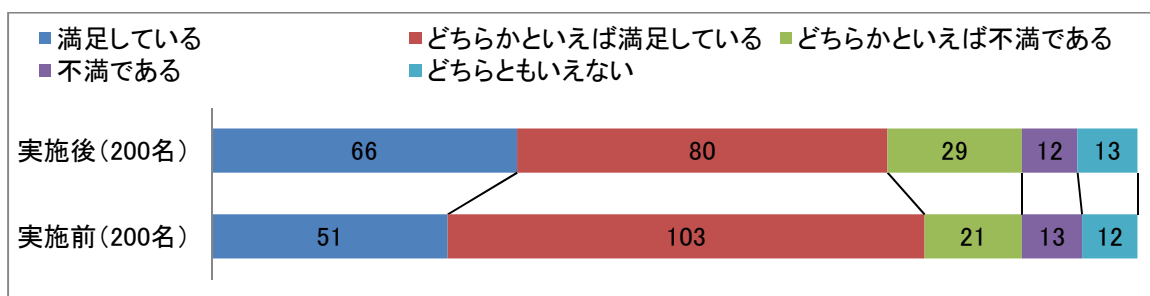


図 2-7 アンケート「水道水の飲み水としての満足度」の結果

(イ) 「水道水の安全性」(図 2-8)

「安心である」「まあまあ安心である」の合計が、実施前と比べ実施後で10名増加した。

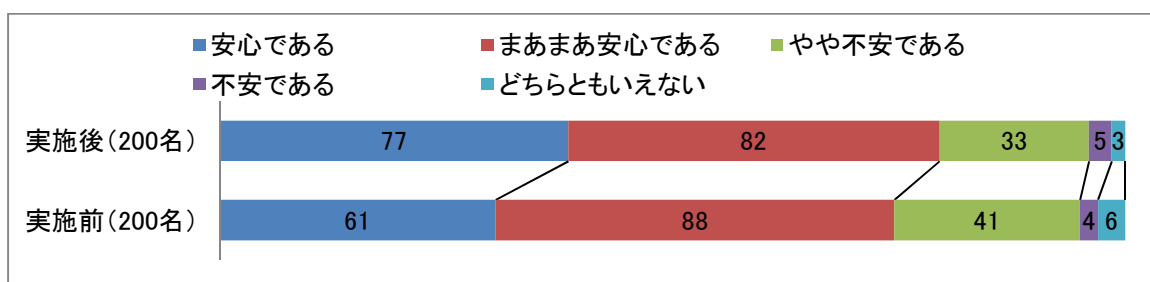


図 2-8 アンケート「水道水の安全性」の結果

(ウ) 「水道水の安全性に不安がある理由（複数回答）」（図 2-9）

実施前と比較すると実施後は回答件数が 22 件減少し、全ての項目において減少あるいは横ばいになった。御自身で水道水の水質検査体験を行う事で、漠然とした不安がなくなるなど、水道水の安全性に対する不安の解消につながったと考えられる。

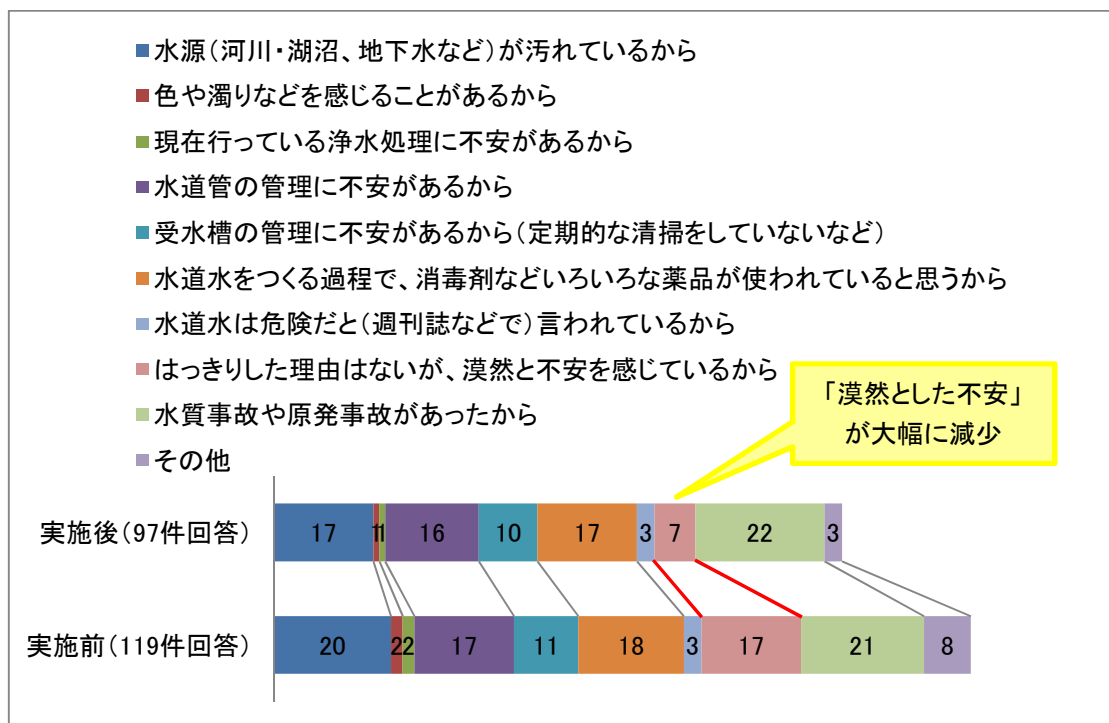


図 2-9 アンケート「水道水の安全性に不安がある理由（複数回答）」の結果

3 おいしい水づくりの技術的な取組

(1) 残留塩素低減化

「第2次おいしい水づくり計画」に基づき、給水栓における残留塩素濃度 0.4mg/L 以下を目標とし、残留塩素の低減化を引き続き進めているところである。

今年度は、ちば野菊の里浄水場の配水区域（図 3-1）を対象に、最夏期及び冬期に残留塩素低減化試験を行った。



図 3-1 平成 29 年度残留塩素低減化試験区域

試験方法は、ちば野菊の里浄水場の配水残留塩素濃度を通常時よりも 0.05mg/L～0.2mg/L 低減した。この間、区域内の消火栓等に設置した連続測定装置と、当局が公園等に常時設置している水質自動監視装置で残留塩素等の測定を行った（表 3-1）。

表 3-1 ちば野菊の里浄水場残留塩素低減化試験の実施状況

試験時期	配水残塩管理目標値				
	現状	第 1 段階	第 2 段階		
			増減	増減	
最夏期 (8 月)	0.80	0.70	-0.10	0.60	-0.20
冬期 (12 月)	0.60	0.55	-0.05	0.50	-0.10

試験結果から、ちば野菊の里浄水場の配水残留塩素管理目標値を最大で 0.10mg/L 低減できる可能性が得られたが、一部の地点で安定的に残留塩素を確保するための対策を行った上で、来年度再試験を実施し、低減化の可否を確認する予定である。

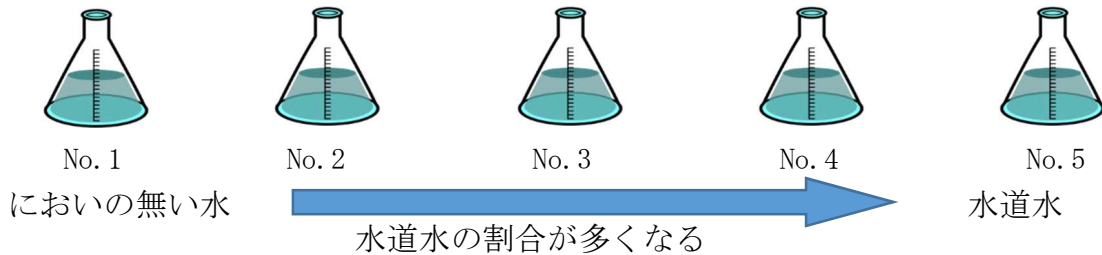
(2) 塩素臭を含む臭気強度

第2次おいしい水づくり計画では、カルキ臭を不快と感じないことを目安として、「塩素臭を含む臭気強度」という新たな指標による目標値の設定を試みている。

ア 臭気試験の実施

本日は、本報告後に目標値設定について議論いただくための参考として、また、データ集積のため、臭気試験への協力をお願いします。

【試験方法】



三角フラスコを片方の手のひらの上に乗せ、もう片方でフタを押さえます。

3回くらい上下に激しく振ります。(水中のにおいが出てきます。)

フタを開けて、すぐににおいを嗅ぎます。

結果を回答用紙に記入します。

① 塩素のにおいがするかどうか。

② ①のにおいが嫌なにおいかどうか。

※試験はNo. 1 から No. 5 へ順番に行ってください。においの感じ方に正解はありませんので、思ったとおりに記入してください。

記入例：No. 3 から塩素のにおいがして、No. 4, 5 で嫌なにおいと感じた場合。

臭気試験回答票

あてはまるところに○を付けてください。

性別：男性 女性

年齢：10歳未満 10代 20代 30代 40代 50代 60歳以上

No.	塩素のにおい		嫌なにおいと感じたところに○
1	する <input type="radio"/>	しない <input checked="" type="radio"/>	
2	する <input type="radio"/>	しない <input checked="" type="radio"/>	
3	する <input checked="" type="radio"/>	しない <input type="radio"/>	
4	する <input checked="" type="radio"/>	しない <input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	する <input checked="" type="radio"/>	しない <input type="radio"/>	<input type="radio"/>

イ 平成 29 年度の調査報告

平成 29 年度は、平成 28 年度に当局の水質職員に対して実施した塩素臭を含む臭気強度と感知確率・不快確率に関する調査結果を基に、一般のお客様（以下、一般の方）を対象に同様の調査を実施した。

(7) 調査方法

先行事例¹⁾を参考に、人が水道水の塩素臭を嗅いだ時の臭いの強さと臭いの感じ方の関係を、特定の薬物・化学物質などの摂取量（暴露量）とそれが生体に及ぼす反応や影響を表す用量反応関係に当てはめて、目標値の設定を試みている。調査は以下の流れで行う。

- ①臭気試験の実施
- ②塩素臭を含む臭気強度及び不快確率^{※1}の算出
- ③用量反応モデル^{※2}当てはめによる用量反応曲線^{※3}の推定
- ④ブートストラップ法^{※4}を用いた用量反応曲線の信頼区間^{※5}の決定
- ⑤用量反応曲線を用いた目標値の設定

※1 不快確率…ある塩素臭を含む臭気強度のときに塩素臭を不快に感じる人の割合

※2 用量反応モデル…医薬品や化学物質などの効果や影響を評価する際に使用する方法。

※3 用量反応曲線…用量反応モデルを、x 軸に物質の用量や濃度、y 軸に生物の反応（確率）をとり、グラフで表したもの

※4 ブートストラップ法…母集団（本来調べたい対象のデータ全て：当局のお客様約 300 万人）から得られたサンプル数（今回の調査では 61 人）が少数のときに、母集団の性質を推定するための手法

※5 信頼区間…母集団の平均値が 95%の確率で入る範囲

(1) 調査結果

今年度、一般の方を対象に実施した臭気試験の概要を表 3-2 に示す（調査方法①）。

表 3-2 一般のお客様を対象とした調査概要

日付	7月22日	8月5日	8月9日
イベント名	おいしい水教室	親子で自由研究	第26回懇話会
浄水処理施設	柏井浄水場東側		
採水箇所	水道局幕張庁舎		
給水方式	受水槽方式		
参加人数	25名	22名	14名
水温（℃）	24.5	24.0	24.0
残留塩素（mg/L）	0.50	0.50	0.50
塩素臭を含む臭気強度	10.81	8.91	15.13

臭気試験により得られたデータから、塩素臭を含む臭気強度と、それに対応する不快確率を算出した（表 3-3、調査方法②）。

表3-3 塩素臭を含む臭気強度と不快確率の算出

塩素臭を含む臭気強度	不快と感じる人数 (度数)	不快と感じる人数 (累積)	不快確率※6
0.297	1	1	0.016
0.360	3	4	0.066
0.504	1	5	0.082
0.891	1	6	0.098
1.081	1	7	0.115
1.513	1	8	0.131
2.970	2	10	0.164
3.603	8	18	0.295
5.042	5	23	0.377
8.910	2	25	0.410
10.81	2	27	0.443
15.13	2	29	0.475

※6 不快確率＝不快と感じる人数(累積)÷総試験者数(61人)

塩素臭を含む臭気強度と不快確率の関係を、3種類の用量反応モデル（対数ロジスティックモデル、対数プロビットモデル、ワイブルモデル）に当てはめた（表 3-4）。その中から、逸脱度が最も低い対数プロビットモデルを採用し、用量反応曲線を導いた（図 3-2、調査方法③）。

表 3-4 用量反応モデルと逸脱度

用量反応モデル	モデル式 (P(d)=不快確率、d=塩素臭を含む臭気強度)	逸脱度	採用
対数ロジスティックモデル	$P(d) = \frac{1}{1 + \exp[-2.104 - 0.793 \ln(d)]}$	5.744	
対数プロビットモデル	$P(d) = \int_{-\infty}^{\frac{1}{2.217 \ln \frac{d}{14.999}}} \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \exp\left(-\frac{x^2}{2}\right) dx$ $= \Phi\left(\frac{1}{2.217 \ln \frac{d}{14.999}}\right)$	5.484	○
ワイブルモデル	$P(d) = 1 - \exp(-0.116d^{0.683})$	6.549	

得られた用量反応曲線の不確実性を確認するため、ブートストラップ法を用いて信頼区間を決定した（図 3-2、調査方法④）。

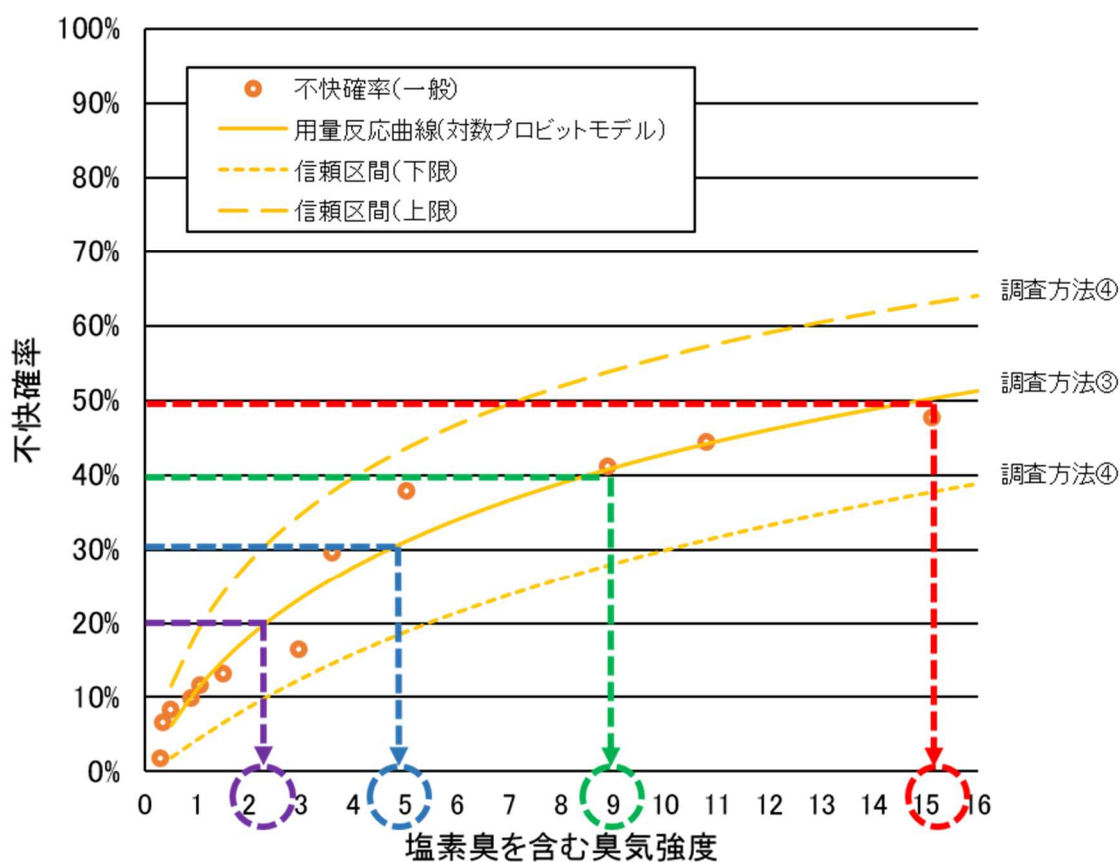


図 3-2 一般の方による塩素臭を含む臭気強度と不快確率の関係について

先行事例¹⁾では、不快確率 50%における塩素臭を含む臭気強度は約 4 で、その信頼区間は 3～5 であることから、目標値としては 4 と設定することが妥当であると報告している。

一方、図 3-2 の用量反応曲線から不快確率 50%における塩素臭を含む臭気強度を求めると約 15 となった。昨年度実施した当局の調査によると、浄水における塩素臭を含む臭気強度の最大値は 9.1 であり、塩素臭を含む臭気強度 15 を目標値とすると、既に達成していることになる。

また、図 3-2 から塩素臭を含む臭気強度 4 における信頼区間は 2～8 となり、先行事例¹⁾ 比べると広がった。これは、推定した曲線の精度が先行事例¹⁾ よりも低いことを表しており、データ数を増やすことで、精度が高くなる可能性がある。先行事例¹⁾ では 137 人分のデータを集積しているのに対し、当局の調査結果は 61 人分のデータであるので、より信頼性の高い用量反応曲線を得るためには、更にデータを集積する必要がある。

(ウ) 本日の論点

用量反応曲線により目標値を設定することの妥当性や、不快確率をいくつにして目標値を設定するかなどについて議論いただく（表 3-5）。

表 3-5 目標値設定の考え方

	目標値	目標値設定の考え方
例 1	15	不快確率 50% (図 3-2)
例 2	9	不快確率 40% (図 3-2)
例 3	5	不快確率 30% (図 3-2)
例 4	4	先行事例 ¹⁾ と同じ
例 5	3	水質管理目標設定項目で、臭気強度 (TON) が 3 以下
例 6	2	不快確率 20% (図 3-2)
例 7	1	「第 2 次おいしい水づくり計画」の水質目標において、臭気強度 (TON) が 1

(I) 今後の進め方 (案)

- ・ 一般モニターに対する調査及びデータ解析の継続
- ・ 暫定目標値の設定
- ・ 測定地点、測定頻度、目標達成の評価方法等の検討
- ・ 暫定目標値による試行 (実運用に向けての実態調査等確認作業)
- ・ 目標値の設定
- ・ カルキ臭低減に係る調査

(参考文献)

1) 石本知子, 伊藤禎彦, 官能試験による水道水臭気 (カルキ臭) の制御目標値の設定, 水道協会雑誌, 第 82 巻, 第 9 号, p10-21, 日本水道協会, 平成 25 年 9 月 1 日